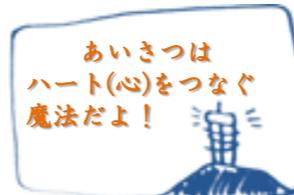


平成27年度第1回地区集会参加者 アンケート集約結果

回答者52人／一般参加者100人



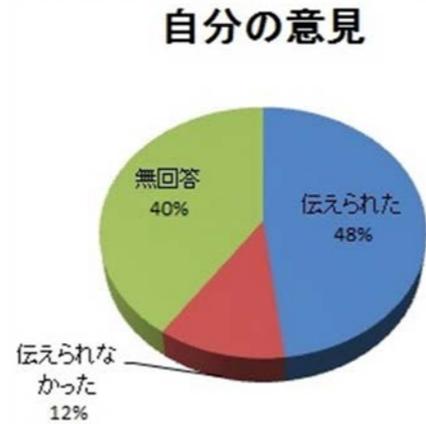
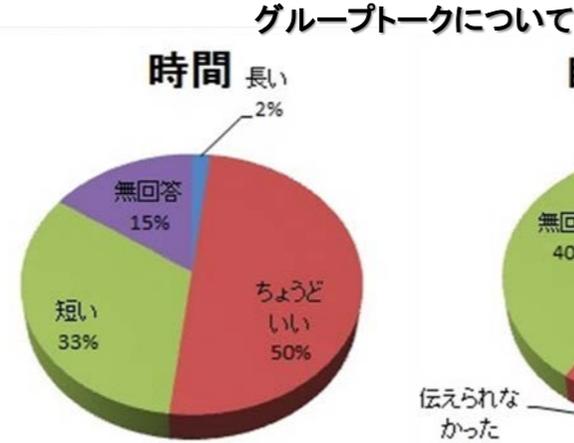
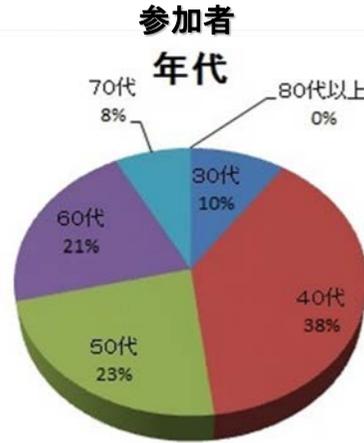
平成24年度あいさつ運動推進標語
中学生の部最優秀賞 永浦愛良さん

片瀬・江の島まちづくり協議会



第十八号

発行日 2015年(平成27年)12月10日
発行 片瀬・江の島まちづくり協議会
(片瀬地区郷土づくり推進会議)
発行人 会長 長谷川 紀夫
事務所 片瀬市民センター内
Kata-c@city.fujisawa.kanagawa.jp
0466-27-2711 FAX0466-25-8907
片瀬地区ポータルサイト
http://fujisawa-katase.ecom-plat.jp/



特集 市長と意見交換しました!

片瀬・江の島まちづくり協議会では、『市長と片瀬・江の島っ子の未来を語り合おう! ~いま、子どもたちに必要な環境とは~』と題して、10月31日(土)12時30分から片瀬市民センターにおいて、平成27年度第1回地区集会を開催しました。

当日は、市長や副市長、市職員等含む総勢120余人が出席し、子どもたちを取り巻く環境や現状の様々な課題等についての有意義な意見交換を行うことができました。あらためて、地域の方々のご協力をいただかないと解決できない課題であることを認識し、今後も関係団体とともに議論を継続してまいります。

最初に、片瀬地区の青少年健全育成に関する様々な取り組みについて映像でご紹介し、市長からも市全体の課題や進めていることについてのお話をいただきました。

そして、6つの班に分かれて参加者同士のグループトークがスタート。そこに、鈴木市長、藤間副市長、子ども青少年部長、市民自治部長が順にグループを回り、参加者と意見交換・交流をしていただきました。

主な話題としては、子どもの居場所の問題、安全にのびのびと遊べる場やボール遊びができるような公園のあり方、貧困等家庭の問題で勉強が遅れている子への学習支援、子どもの放課後の過ごし方などについての意見が交わされました。
※詳細は中面をご覧ください。



■市長・副市長からのメッセージ■

グループトーク終了後に、市長と副市長から参加者へコメントをいただきましたので、概要をご紹介します。

各グループを回らせていただき、生活の中からの実情としていろいろなお話ができましたので、行政の立場としてひとつひとつきちんと受け止め、市政を進める中で反映していくことが大切であることを痛感しました。

例えば、公園でのボール遊びについては、いろいろな知恵を出してどう使ったら公園が最大限に活かせるのか考えることが大事です。

また、学習支援については、貧困の問題がかなり関わっていますが背景は複雑で、ひとつの視点から解決しようとせず、多方面から支援していくことが非常に重要です。行政だけではできないこともありますので、地域みなさんとの協力をどう作るのかが大きな課題です。

今日のようにお話を積み重ねていただき、行政も本音でお話をして、汗をかいたり知恵を出すことをやっていきたいと思っております。



◆グループトークで伝えられなかったこと

- 球を使って遊べる場所づくり。住民との調和のためにも環境を整える(ネットの設置など)
- フランチイズ店の地域の縁側は再考を
- 図書館学習室の整備や夜までの開館を。鎌倉市の「学校にいきたくない子は図書館においで…」は、とても良い案

- 片瀬山にも縁側を。空き家を利用し、子ども図書コーナーも設け、世代間や障がい者との交流も
- 市外の日帰り温泉に中学生が夜通しいる。カラオケやゲームセンターを含む施設への呼びかけを
- ささえあいセンターの増設は、子どもも利用できる前提で。

- 海岸サイドに子どもの集える場所がないので山本公園に手を入れるときには、子どもの立場に立って改良を。「屋根のある公園」という幼児からお年寄りまでが自由に雨でも居られる場に。

- 鎌倉市のように学童へ一般児童も自由に出入り出来るように。学童の子と他の子が遊ぶ機会が出来、子どもの居場所にもなる

- 子どもに注意して苦情がこないか心配
- 学ぶことが多かった ○中学校給食の実施を
- 時代が変わったこと(ゲームなど)を痛感。学校各クラスで問題を話し合ってみたらどうか
- 子ども会が存続の危機。どのように入会者を増やすか悩んでいる

- 様々ないい機関があるので、もっとアピールを
- 伝えたい事はたくさんある。発言時間が足りない
- 市長にはもう少し長くいていただきたいかった
- 様々な立場から、活発な意見交換を行えた

◆今後とりあげてほしいテーマ

- 今後も継続して話し合いを。第2回を。子育てや子どもの育つ環境について更に充実した話し合いの場となり、結果の出るようになるといい

- 子ども関連はテーマとしてよかった。もう少し絞って「公園」に特化するとか。公園を引き続き話し合いを

- 放課後の過ごし方を子ども自身の声が聞きたい
- 子どもの遊び場。空き家対策として居場所利用を
- 子ども、老後含めた貧困。居場所に集まる子どもはまだ健全。他の子どもをどうするか

- 子どもたちのいじめ問題、不登校問題、貧困問題
- 子どもと老人のコラボ
- ゲーム、インターネット、スマホについて
- 通学路 ○寺小屋事業
- 小学生についておこずかいや外出の家ルール
- オリンピックに向け、防犯や景観を意識した街づくり ○町の雰囲気づくり
- 一般の方が参加したいと思うこと。ワークショップ形式で。今回は子育て世代が参加し易く、嬉しかった

◆日頃感じている地域の課題・意見

- 山本公園のその後の情報
- 子どもの放課後居場所、身体を動かす機会の減少⇒成長に及ぼす影響について
- ボール遊びができる場
- 公園の使用について良い方向へ進んでほしい
- 子どもの居場所として、地域ささえあいセンターとのコラボで、今後増やして

- まちかどミニベンチを諏訪神社正面左側に設置を
- スクールゾーンの緑と白のラインは大変良い。湘南海岸公園駅付近は道幅狭く危険なので配慮を
- オリンピック後、住みやすい街づくりを視野に
- オリンピックに向けて景観を意識した環境づくり
- 観光客との共生

- 片瀬山の風致地区制限緩和
- 計画道路横浜藤沢線の情報の場を十分に設けて
- いきいき長寿プラン藤沢の展開を推進して
- 世代間交流・ボランティアに参加する人の掘り起し

- 日頃から地域が子どもたちをあたたく見守ってくださることに感謝

- たくさんのサポートがあり感謝
- パトロールや見守りに感謝。地域に見守られながら子どもが成長

- 小さな子どもに、もう少しあたたかい目で見守っていただけると

- 運営、準備ありがとうございました
- 参加して地域課題の共有性の大切さを強く感じた。
- いつも参加するメンバーが似たりよったり。市民の家でミニ集会は可能か?

○子どもが産まれましたが、近くに親がおらず、頼れる人がいなくて不安です。一時期だけでもお手伝いをしていただける方がいてくれると助かります。

(市)市では、ファミリー・サポート・センターを設置し、子育てのサポートを受けたい人(おねがい会員)とサポートできる人(まかせて会員)が、地域の中でお互いに助け合っていく制度を実施しています。また、保育園での一時保育も実施していますので、ご利用ください。

○ファミリー・サポート・センターは認知度が低いので、もっとPRをしてほしい。まかせて会員は、登録研修の日程を分け、片瀬でも受講できれば身近で増えると思います。

○にこにこ広場をよく利用しています。片瀬山、片瀬海岸周辺にもあると良いのですが。幼稚園や公園管理事務所など既存の施設を、にこにこ広場との複合施設としてつくることはできないでしょうか。

○地区で子どもに関する講座が多く開催されていますが、主催団体が色々あり、詳細がわかりづらい。

○公園でのボール遊びは、幼児・低学年はできるように看板へ添書きを。

○公園の遊具の不具合について、看板にメールアドレスを載せることで、写真を付け連絡できるようにしてはどうか。

○地域の縁側事業で飲食店とコラボすることは、子どもたちのたまり場になりそうで心配です。



1班

○放課後に子どもが公園でよく遊んでいますが、公園内で飲酒したと思われる跡があったり、空き缶やビンが散乱して危険を感じます。

○小学生から高校生の子どもの居場所がなく、市全体で若い世代を育てる事業を考えていく必要があります。

○片瀬子どもの家から自宅が遠い子どもの行き帰りが心配ですが、規制が多い公園は敬遠されがちのようです。

○ボール遊びや素振り、ドッチボール、サッカー、野球などの自主練習ができる遊び場所がほしい。公園は規制が多く、周辺住民からのクレームも多いようで、どうしたらよいか。

○子どもが外で遊ばずゲームばかりしているのが心配。公園からブランコなどの遊具が減っているようですが、危ないからと排除するのはいかがか。五感を使った遊びは大切。

○その場所を管理している側としては、リスクが大きいものを置きたがりません。身近にある公園をもっと色々な遊びができる場にしていければ。

○にこにこ広場にはとても助けられます。引っ越してきた者から見ると大変良い街。支援側の高齢化が気になります。

○片瀬山幼稚園跡地利用の検討を。

○子どもの事業に対する保護者の関わりが減っています。子どもは参加させたいが、保護者は関わりたくない傾向に。

○片瀬は世代を超えたOBのつながりがあり、お祭りも多く、タテ(異世代)の関係が大事にできています。一度地区外に出てお祭りには戻るなど地域愛が素晴らしい。



2班

○片瀬こどもらんど(子どもの家)が遠くて利用できない子もいます。海岸方面にも場をつくれませんか。

○公園など子どもがボール遊びできる場所が少ない。

○しおさいセンターでの子どもの過ごし方が意外と乱雑で驚きました。子どもが雨の日には何か楽しめる場所がほしい。

(市)子どもたちが素直、元気で良い地域。地域力にも感心します。放課後の過ごし方について、安心して過ごせるには何ができるのか考えていきたい。

○あいさつや反応のある子が多い。引き続き見守りたい。

○子どもと高齢者とのマッチングの検討を。子どもが悪いことをしたら大人が叱る意識を持つことが大事だと思います。

(市)児童クラブにボランティアが入り、高齢者施設へ相談をしています。他地区では、小規模多機能施設で放課後に子どもたちと高齢者がコミュニケーションをとっている例もあり、今後も異世代交流のソフトを考えていきたい。

○居場所として小学校の開放はできないでしょうか。

(市)教室には児童の私物もあり、不特定多数の人が入ることは難しく、管理面でも課題があります。

○ひだまり片瀬の時間を延長するなど、居場所をもう少し増やしてほしい。

○子ども会は会員が減ってきていますが、町内会行事や地区レクなどで親睦会を兼ねることで大変良いコミュニケーションがとれています。



3班

グループトークの紹介

○にこにこ広場で子育てが終わった方にもお手伝いいただくと、大きな力になると思います。

○小さい時から地域で見守っているのに、中学生になり反抗期が来て何かあっても、地域で気づいて支援ができます。

○子ども会の加入を親が役を面倒に思い、減少したことがありましたが、少人数でもできることを続けた結果、また加入者が増えてきました。続けることが大切だと思います。

○小学生の公共施設でのマナーの問題については、親とも話し合うことで、子どもも注意して遊ぶようになりました。

○新林小から中学へ行くと居場所が定まらず見守りが難しい。

○江の島は夜遅くでも子どもの姿が。地域で見守りたい。

○子どもには遊びが大切。公園の利用規制が多すぎます。

○子どもの貧困に関し、子どもに夕食を届ける制度があると、親も安心でき、安否確認にもなると思います。

(市)地域の見守りの大切さを実感。貧困についてはサポートを検討しています。公園は周りの方と時間帯等使い方を話し合うなど、柔軟な発想で地域で決めていいと思います。

○公園は看板の注意事項を守るのが正しいと思っていましたが、話し合いで遊び方を決められることがわかり良かった。

○海岸方面には集える場所がない。片瀬山も幼稚園跡地を地域のコミュニティの場所として利用できればと思います。

○夜間ひとりである子どもの支援には、行政と地域のパイプ役が必要。

○青少年の居場所に専属の見守る人を置いてほしい。多感な時期なので、対応はそれなりの技術が必要。



4班

○ゲームばかりやっていることについては、安全に遊べる場所があれば外で遊ぶようになると思います。

○片瀬海岸にも片瀬こどもらんどのような場所がほしい。山本公園の管理事務所を利用できるといいと思います。

○インターネットやゲーム、スマホなどが、子どもたちへどのような影響があるのか心配です。幼稚園の保護者向けにセミナーを行えるといいと思います。

○レンタルビデオやカラオケ店の利用カードを親の承諾無しに中学生でも作れてしまうので、事故やトラブルが心配です。ファミレスなどでも「何かあったら親へ連絡するよ」など声かけをしてもらえたらと思います。

○引っ越してきましたが、藤沢は遊び場がありません。もっと自由にのびのび遊べるスペースがあるといいです。

○片瀬山の自宅へ帰ると、遊びに出るのが面倒になります。遊べる所がすぐ近くにあればと思います。片瀬山幼稚園の跡地などを活用できないでしょうか。

○公園のボール遊びは議会でも話題になり、競技につながらないボール遊びはOKと聞きました。しかし、子どもだけでは何かあったときに対応できないこともあるので、「見守る人」を募集し、困ったときに助けられる体制を考えていけるといいと思います。



5班

○学習塾のように勉強を教えられる場所があるといい。やる気を起こしてくれることも大事です。ニートや思春期の子どもたちへの配慮もしてほしいと思います。

○にこにこ広場は未就学児までで、児童クラブでは勉強を教えられないのが現状であり、通える子も限られます。

○中学校では勉強の遅れた子への補習がありますが、小学校では難しいようです。

○親~子~学校の関係だけではなく、しおさいセンターなども連携できるといいと思います。

○遊び場が自宅から小学校の間にあるといいと思います。自然を活かしたり、安全で安心できる場を作りたい。

○片瀬海岸では、津波避難場所まで時間がかかるのが心配。子どもの多い地域に避難場所も兼ねるような施設がない。

○片瀬こどもらんどへ初めて来た子にも催しの案内を渡していますが、利用者の多くが常連というのが実態です。

○夏休みに子ども事業を開催しても子どもが来ません。やはり、日常的に接点を持つことが大事だと思います。

(市)子どもの居場所は学校の近くが理想的とは思いますが、高齢者の居場所も確保していきたい。学習支援については、NPOなどとマッチングをとっていき、児童クラブの利用や放課後の過ごし方もきめ細かに考えていきたい。



6班